

博士論文(要約)

論文題目

弥生時代及び併行期の東アジアにおける
ガラス製品の考古学的研究

氏名

小 寺 智津子

弥生時代及び併行期の東アジアにおける ガラス製品の考古学的研究

目次

はじめに～本論の目的.....	1
第1部 弥生時代のガラス製品と弥生社会	
第1章 研究史及びガラスの特性にみる諸問題.....	5
第2章 ガラス管珠・勾珠の分類とその副葬に見られる意味.....	15
第3章 ガラス釧とその副葬.....	61
第4章 ガラス璧の様相と舶載の背景.....	77
第5章 ガラス小珠の様相.....	101
終章 ガラス製品からみた弥生社会.....	113
第2部 弥生時代併行期におけるアジア各地のガラス製品の様相と 弥生社会の対外交流	
第1章 弥生時代併行期における朝鮮半島のガラス製品 ～管珠・曲珠を中心とする様相.....	127
第2章 戦国時代から漢代における中国のガラス管珠の様相.....	149
第3章 カリガラス製品と古代アジアの交易ネットワーク.....	191
第4章 鉛同位体比からみるガラス製品の関係.....	221
終章 ガラスの諸相からみた古代アジアと弥生社会の対外交渉.....	243
参考文献一覧.....	257
掲載図版出典一覧.....	277

図版

第1部

第2章

- 図1 巻付け技法の痕跡
- 図2 引伸ばし技法の痕跡
- 図3 捻り引き技法の痕跡
- 図4 弥生時代のガラス管珠
- 図5 勾珠鋳型
- 図6 片面鋳型による製作時の孔形成の痕跡
- 図7 弥生時代に見られるガラス勾珠の形態分類
- 図8 弥生時代のガラス勾珠
- 図9 弥生時代におけるガラス管珠・勾珠の分布
(墳墓出土のみ)

- 図10 北部九州中期遺跡分布図
- 図11 北近畿後期遺跡分布図
- 図12 立岩28号甕棺墓珠類検出状況
- 図13 赤坂今井第4埋葬珠類検出状況

第3章

- 図1 二塚遺跡甕棺墓出土ガラス釦
- 図2 西谷2号墓出土ガラス釦
- 図3 西谷2号墓ガラス釦製作痕
- 図4 大風呂南1号墓出土ガラス釦
- 図5 大風呂南1号墓ガラス釦製作痕
- 図6 比丘尼屋敷墳墓出土ガラス釦
- 図7 銅釦の系譜
- 図8 対馬出土の円環形銅釦
- 図9 北部九州出土の円環形銅釦
- 図10 中国・近畿出土の円環形銅釦
- 図11 大風呂南1号墓 ガラス釦出土図
- 図12 北近畿後期弥生墳墓における手珠出土図

第4章

- 図1 三雲南小路1号甕棺墓出土ガラス璧
- 図2 広西省合浦望牛嶺2号漢墓出土ガラス璧
- 図3 東小田峯遺跡10号甕棺墓出土
有孔円盤型ガラス器
- 図4 有孔円盤型ガラス器製作模式図
- 図5 三雲南小路2号甕棺墓出土ガラス垂れ飾
- 図6 安徳台2号甕棺墓出土ガラス勾珠
- 図7 須玖岡本遺跡・立岩遺跡出土塞杆状ガラス器

- 図8 安徳台出土塞杆状ガラス器
- 図9 塞杆状ガラス器復元想定図
- 図10 山東省臨淄商王村1号戦国墓出土
ガラス製簪飾形器

- 図11 陝西省關雞臺溝東区墓葬出土簪飾器他
- 図12 山東省陽高漢墓出土面罩(箱型覆面)復元図

第5章

- 図1 カリガラス小珠—淡青色
- 図2 カリガラス小珠—青〜紺(藍)色
- 図3 高アルミナソーダ石灰ガラス小珠
- 図4 鉛バリウムガラスガラス小珠
- 図5 気泡の状態

第2部

第1章

- 図1 朝鮮半島中部以南で珠類を出土した主な遺跡
- 図2 無文土器時代ガラス管珠
- 図3 原三国時代ガラス管珠
- 図4 原三国時代ガラス曲珠
- 図5 無文土器時代の定形化した天河石曲珠

第2章

- 図1 戦国時代の蜻蛉管珠
- 図2 戦国時代のファイアンス系珠
- 図3 戦国時代のガラス管珠
- 図4 吉林樺甸西荒山屯出土ガラス管珠
- 図5 新疆尉犁營盤墓地出土ガラス管珠
- 図6 楽浪土城出土ガラス管珠
- 図7 楽浪土城出土ガラス製品
- 図8 楽浪土城におけるガラス製品の出土位置
- 図9 吉林省樺甸西荒山屯出土遺物
- 図10 無文土器時代の管珠

及び吉野ヶ里遺跡出土管珠

- 図11 遼寧旅順魯家村漢代窖藏出土前漢鏡

第3章

- 図1 広西省合浦風門嶺26号墓出土小珠
- 図2 韓国昌原三東洞出土小珠
- 図3 ガラス耳璫
- 図4 ランヴァック遺跡出土ガラス玦状耳飾

図5 ランヴァック遺跡出土ガラス腕輪

図6 中国広西省出土ガラス環

図7 中国広西省出土ガラス杯（碗）・盤

図8 カリガラス器実測図

図9 東地中海製鋳造ガラス器

第4章

図1 欧州・地中海・中東・中国の古代遺物の
鉛同位体比の分布

図2 馬淵・平尾による弥生時代に出土する
青銅器の鉛同位体比模式図

図3 中国鉛鉱石の鉛同位体の分布

図4 中国各地の鉛同位体比の分布

図5 戦国期古幣の鉛同位体比の分布と領域E

図6 中国・朝鮮の鉛鉱石の鉛同位体比の分布

図7 雲南省の鉛鉱山の鉛同位体比の分布

図8 中国戦国時代～漢代の出土ガラス製品
鉛同位体比の分布図

図9 中国戦国時代～漢代の収集品
鉛同位体比の分布図

図10 中国戦国時代～漢代の出土品・収集品
鉛同位体比の分布図

図11 弥生時代中期のガラス製品
鉛同位体比の分布図

図12 弥生時代後期のガラス製品
鉛同位体比の分布図

図13 弥生時代中期～後期のガラス製品
鉛同位体比の分布図

本文中挿図

第1部

第1章

図1 日本出土の古代ガラスの種類 p8

本文中表

第1部

第2章

表1 弥生時代のガラス管珠タイプ一覧	p23
表2 弥生時代のガラス勾珠タイプ一覧	p34
表3 各タイプの出現期間	p38
表4 ガラス管珠タイプ別 弥生後期墳墓出土数	p43
表5 ガラス勾珠タイプ別 弥生後期墳墓出土数	p45
表6 弥生時代中期にガラス管珠・ガラス勾珠が副葬された墳墓	p47
表7 宇木汲田中期甕棺墓 副葬品一覧	p48
表8 丹後における後期初頭から中葉の主要墳墓副葬品組成	p54
表9 丹後における後期後葉から終末期の墳丘墓の副葬品	p55
表10 北近畿における副葬ガラス製品タイプ一覧	p57

第3章

表1 弥生時代の遺跡から出土したガラス釦	p65
表2 円環形銅釦の法量と形態	p69

第2部

第2章

表1 戦国時代～漢代ガラス管珠一覧	p156-157
-------------------	----------

第3章

表1 漢代併行期のアジアにおけるカリガラス製品組成表	p193
表2 カリガラス種類別出土地域	p205
表3 広西出土のガラス器一覧	p211

第4章

表1 中国戦国時代～漢代の発掘出土ガラス製品 鉛同位対比一覧	p227
表2 中国戦国時代～漢代と考えられている収集品 鉛同位体比一覧	p228
表3 弥生時代のガラス製品 鉛同位対比一覧	p234

書誌情報

著者名 小寺 智津子（こてら ちづこ）

題名 『古代東アジアとガラスの考古学』

出版社 同成社

出版年 2016 年 4 月 10 日

ISBN 978-4-88621-721-9 C3021

参考文献一覧

【日本語・参考文献】

青柳種信

1976『柳園古器略考』文献出版社

綾野早苗

2000「津山市有本遺跡出土ガラス管玉について」『古代吉備』22 p62-68

新井宏

2000「鉛同位体比による青銅器の鉛産地推定をめぐって」『考古学雑誌』85-2 p1-114

2007「鉛同位体比から見た弥生期の実年代に関する一試論」『考古学雑誌』91-3 p1-26

安藤広道

2003「弥生・古墳時代の各種青銅器」

『考古資料大観 6 弥生・古墳時代 青銅・ガラス製品』小学館 p291-306

石川岳彦

2011「青銅器と鉄器普及の歴史的背景」『弥生時代の考古学 3 多様化する弥生文化』

設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦編 同成社 p195-215

石崎善久

2000「弥生墳墓の構造と変遷」

『丹後の弥生王墓と巨大古墳』季刊考古学・別冊 10 雄山閣 p65-72

石原由美子

1988「但馬の古代ガラスについて」『但馬考古学』5 p39-45

出雲市文化企画部文化財室

2004「西谷墳墓群発掘調査速報展」資料

伊都歴史資料館

1998『伊都国発掘'98 王がいた証』

井上裕弘

2000「北部九州の首長墓と甕棺」『大塚初重先生頌寿記念考古学論集』 p685-712

井上洋一

1989「銅釧」『季刊考古学』27 雄山閣 p56-59

今村啓爾

1998「紀元前1千年期の東南アジアと中国の関係」『東南アジア考古学』18 p1-20

2001「ベトナム、ランヴァク遺跡とドンソン文化」『東南アジア考古学最前線』

第15回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会編 クバプロ p48-58

岩永省三

1997『日本の美術 370 弥生時代の装身具』 至文堂

2004「考古学者から見た青銅器の科学分析」『科学が解き明かす古代の歴史』

第18回「大学と科学」公開シンポジウム講演収録集 クバプロ p110-119

上野祥史

2003「漢墓資料研究の方向性」『国立歴史民俗博物館研究報告』108 p67-91

梅原末治

1960「日本上古の玻璃」『史林』43-1 p1-18

1971「日本上古の玻璃補説」『日本古玉器雑攷』吉川弘文館 p131-143

会下和宏

1999「弥生墳墓の「副葬品」 一中、四国、近畿、北陸地域を中心にして」

『地域に根ざしてー田中義昭先生退官記念文集』 p27-45

2000 「西日本における弥生墳墓副葬品の様相とその背景」『島根考古学会誌』17 p49-72

2002 「弥生墳墓の墓壇規模について」『島根考古学会誌』19 p33-63

2011 「墓域構成の変化、区画墓の展開」『弥生時代の考古学4 古墳時代への胎動』

設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦編 同成社 p191-210

大賀克彦

2002 「日本列島におけるガラス小玉の変遷」『小羽山古墳群』清水町埋蔵文化財発掘調査報告書V

福井県清水町教育委員会 p127-145

2003 「紀元三世紀のシナリオ」『風巻神山古墳群』清水町埋蔵文化財発掘調査報告書VII

福井県清水町教育委員会 p72-90

2010a 「日本列島におけるガラスおよびガラス玉生産の成立と展開」

『月刊文化財』566 文化庁文化財部監修 p27-35

2010b 「弥生時代におけるガラス製管玉の分類学的検討」『小羽山墳墓群の研究』

福井市郷土歴史博物館・小羽山墳墓群研究会 p213-230

2010c 「ルリを纏った貴人一連鎖なき遠距離交易と「首長」の誕生」『小羽山墳墓群の研究』

福井市郷土歴史博物館・小羽山墳墓群研究会 p231-254

大賀克彦・肥塚隆保

2001 「弥生・古墳時代の考古科学的研究」『日本文化財科学会 第18回大会』 研究発表要旨集

大塚和義編著

2001 『ラッコとガラス玉 北太平洋の先住民交易』国立民族学博物館

大塚和義

2001 「ガラス玉の道」『ラッコとガラス玉 北太平洋の先住民交易』国立民族学博物館 p11-13

岡内三眞

1982 「朝鮮における銅剣の始原と終焉」『考古学論考—小林行雄博士古稀記念論文集 p287-844

1993 「朝鮮出土のガラス管玉」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』39 哲学・史学編 p35-54

岡崎敬

1976 「解題—三雲遺跡とその時代」『柳園古器略考』 文献出版

岡村秀典

1984 「前漢鏡の編年と様式」『史林』67-5 p661-702

1995 「楽浪出土鏡の諸問題」『月刊考古学ジャーナル』392 p15-20

1998 「秦漢帝国の対外交渉とその美術」『世界美術大全集 東洋編』2 小学館 p323-328

1999 『三角縁神獣鏡の時代』吉川弘文館

2000 「儀礼用玉器の展開—春秋戦国時代の玉器」『世界美術大全集東洋編第1巻』小学館 p261-268

小澤正人・谷豊信・西江清高

1999 『世界の考古学⑦ 中国の考古学』 同成社

小瀬康行

1987 「管切り法によるガラス小玉の成形」『考古学雑誌』73-2 p83-95

1989 「古墳時代ガラス勾玉の成形法について」『考古学雑誌』75-1 p40-59

小田富士雄

1984 「弥生時代円環型銅釧考」『古文化談叢』13 p103-132

1987 「初期筑紫王権形成史論—中国史書にみえる北部九州の国々—」

『東アジアの考古と歴史』中 同朋舎 p755-803

小田富士雄・韓炳三

1991 『日韓交渉の考古学 弥生時代編』 六興出版

小田富士雄・武末純一

1991 「6 日本から渡った青銅器」『日韓交渉の考古学』小田富士夫・韓炳三編 六興出版

小山田宏一

1995 「副葬品」『季刊考古学』52 p48-51

春日市教育委員会

1995 『春日市史』(上)

春日市教育委員会文化財課

2001 「弥生時代の鋳造工房跡—福岡県須玖坂本遺跡—」『考古学雑誌』86—4 p83-89

春日市教育委員会編

1994 『奴国の首都 須玖岡本遺跡』 吉川弘文館

加藤紘一

2009 『アートなガラスの材料学』 里文出版

金関丈夫・坪井清足・金関恕

1961 「山口県土井ヶ浜遺跡」『日本農耕文化の生成』 日本考古学協会編 東京堂 p223-253

金関恕・佐原真編

1987 『弥生文化の研究 8 祭りと墓と装い』 雄山閣

唐津湾周辺遺跡調査委員会編

1982 『末盧国』 六興出版

河上邦彦

1991 「中国漢代墓の一つの墓制—面罩—」『古代の日本と東アジア』 上田正昭編 小学館 p286-311

木下尚子

1982 「貝輪と銅釧」『末盧国』 六興出版 p424-445

1987 「弥生定型勾玉考」『東アジアの考古と歴史』 岡崎敬先生退官記念論集 p541-591

2000 「装身具と権力・男女」『古代史の論点 2』 小学館 p187-212

2002 「細形(韓國式)銅剣文化の装身具」『細形銅剣文化の諸問題』

九州考古学会・嶺南考古学会第 5 回合同考古学大会レジメ p163-174

京嶋寛

2009 「ガラス小玉鋳型出土の意義」『古代学研究』182 p28-38

金奎虎・肥塚隆保 (2010)

2010 「韓国出土の古代ガラスの概要」『月刊文化財』566 文化庁文化財部監修 p36-40

グエン・チュオン・キー (平野裕子訳)

2005 「ベトナムの古代ガラス (1)」『GLASS』48 p64-72

2006 「ベトナムの古代ガラス (2)」『GLASS』49 p41-62

2008 「ベトナムの古代ガラス (3)」『GLASS』52 p56-83

クライン, ダン&ロイド, ウォード編 (湊典子・井上暁子訳)

1995 『ガラスの歴史』 西村書店

黒川高明

2009 『ガラスの文明史』 春風社

小泉好延・小林紘一

1999 「弥生・古墳時代のガラス材質」第 1 回考古科学シンポジウム資料

肥塚隆保

1996 「化学組成からみた古代ガラス」『古代文化』48—8 p47-59

1999 「ガラスの調査研究」『日本の美術 400 美術を科学する』 至文堂 p33-43

2000 「有本遺跡出土ガラス遺物の科学的調査」『田邑丸山古墳群・田邑丸山遺跡』

津山市埋蔵文化財発掘調査報告書 67 津山市教育委員会 p63-67

2001 「古代ガラスの材質と鉛同位体比」国立歴史民俗博物館研究報告 86 p233-249

2005 「古代のガラス—最近の研究から」『科学が解き明かす古代の歴史』

第18回「大学と科学」公開シンポジウム講演収録集 クバプロ p144-152

2009「日本出土の古代ガラス—素材とその歴史の変遷」『GLASS』53 p3-9

2010「古代ガラスの科学」『月刊文化財』566 文化庁文化財部監修 p7-12

肥塚隆保・大賀克彦

2000「出土ガラスの考古科学的研究」奈良国立文化財研究所 古代ガラスシンポジウム資料 p10-15

2001「出土青色系ガラスの材質と着色因子について」

日本文化財科学会第17回大会 研究発表要旨集 p24-25

肥塚隆保・小暮律子

1998「三坂神社墳墓群出土ガラス玉類の分析」『三坂神社墳墓群他』大宮町教育委員会 p105-112

肥塚隆保・田村朋美・大賀克彦

2010「材質とその歴史の変遷」『月刊文化財』566 文化庁文化財部監修 p13-25

古代オリエント博物館他編

1991『南ロシア騎馬民族の遺宝展』図録 朝日新聞社

小寺智津子

2006a「弥生時代のガラス製品の分類とその副葬に見る意味」『古文化論叢』55 p47-79

2006b「弥生時代併行期における朝鮮半島のガラス製品—管玉・曲玉を中心とする様相—」

『古代学研究』174 p1-19

2006c「弥生時代の副葬に見られる玉類の呪的使用とその背景」『死生学研究』2006年秋号 p163-196

2009「弥生時代におけるガラス製品の改鋳とその背景」アジア鑄造技術史学会研究発表概要集3

2010a「弥生時代のガラス釧とその副葬」『東京大学考古学研究室研究紀要』24 p45-63

2010b「紀元前後のカリガラス製装飾品とアジア社会の交流」『東南アジア考古学会研究報告』8 p27-34

2010c「小羽山30号墓出土のガラス製品—その様相と地域間交流—」

『小羽山墳墓群の研究』福井市郷土歴史博物館・小羽山墳墓群研究会 p279-292

2012『ガラスが語る古代東アジア（ものが語る歴史27）』同成社

後藤直

2006『朝鮮半島初期農耕社会の研究』同成社

後藤守一

1921「硝子製壁断片」『考古学雑誌』11-12 p45-p47

小林行雄

1964『続古代の技術』塙書房

1978「弥生・古墳時代のガラス工芸」『MUSEUM』324 p4-13

近藤光男

1977『戦国策（中）』全釈漢文大系24 集英社

近藤義郎

1992『楯築弥生墳丘墓の研究』楯築刊行会

財団法人九州環境管理組合

1991「平原弥生古墳出土琥珀色珠片等の化学分析結果報告」『平原弥生古墳 上』

平原弥生古墳調査報告書編集委員会 葦書房 p225-260

斉藤努

2003「鉛同位体比産地推定法とテータの解釈について」『国立歴史民俗博物館研究報告』108 p257-279

早乙女雅博

2000『朝鮮半島の考古学 世界の考古学10』同成社

島根県古代文化センター

2005『古代出雲における玉作の研究Ⅱ』島根県古代文化センター調査研究報告書28

島根県立八雲立つ風土記の丘編

2001『ガラスのささやき～古代出雲のガラスを中心に』

2001 年度企画展「古代の技術を考えるⅡ」図録

薮 勇造

1997「新訳『エリュトラ海案内記』」東洋文化研究所紀要 132 p1-30

1999「エリュトラ海案内記の世界」『市場の地域史』地域の世界史 9 山川出版社 p250-289

清水眞一

1992「ガラス小玉鋳型についての一考察」『考古学与生活文化』同志社大学考古学シリーズV p225-234

下条信行

1986「北部九州弥生中期の「国」家間構造と立岩遺跡」『児島隆人先生喜寿記念論集』p77-106

庄田慎矢

2005「朝鮮半島の玉文化」『季刊考古学』94 雄山閣 p85-88

杉原荘介・原口正三

1961「佐賀県桜馬場遺跡」『日本農耕文化の生成』日本考古学協会編 東京堂 p133-156

清家 章

1996「副葬品と被葬者の性別」『雪野山古墳の研究 考察編』 p175-200

関野貞他

1927『楽浪郡時代の遺跡』古蹟調査特別報告第四冊 朝鮮総督府

瀬戸谷皓

2000「弥生墳墓からみた但馬の鉄製品」『月刊考古学ジャーナル』467 ニューサイエンス社 p18-21

2001「但馬における弥生墳墓の展開」『北近畿の考古学』両丹考古学研究会・但馬考古学研究会 p45-60

2005「北近畿（但馬・丹後）の弥生墳墓」『季刊考古学』92 雄山閣 p58-61

高木暢亮

2003『北部九州における弥生時代墓制の研究』九州大学出版会

高久健二

1993「楽浪墳墓の編年」『考古学雑誌』78-4 p33-77

2004「楽浪古墳文化研究の最前線」

『楽浪文化と東アジア楽浪郡研究の最前線』シンポジウム資料

2005「韓国における原三国時代の墓制」『季刊考古学』92 雄山閣 p26-30

2011「楽浪・帯方郡との関係」『弥生時代の考古学4 古墳時代への胎動』

設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦編 同成社 p39-53

高倉洋彰

1973「墳墓からみた弥生時代社会の発展過程」『考古学研究』20-2 p7-24

1995『金印国家群の時代』青木書店

1999「副葬のイデオロギー」『季刊考古学』67 p29-33

高田貫太

2011「朝鮮半島三国時代における墓制と日本列島との比較」『弥生時代の考古学4

古墳時代への胎動』設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦編 同成社 p68-87

高野陽子

2000「弥生大形墳墓出現前夜の土器様相」

『丹後の弥生王墓と巨大古墳』季刊考古学・別冊10 雄山閣 p47-56

高橋勇

1937「本年度楽浪土城発掘概況」『考古学雑誌』27-8 p47-50

武末純一

2002「弥生文化と朝鮮半島の初期農耕文化」

- 『古代を考える 稲・金属・戦争』佐原真編 吉川弘文館 p105-138
- 2004「弥生時代前半期の暦年代」『福岡大学考古学論集—小田富士雄先生退職記念—』
小田富士雄先生退職記念事業会 p131-156
- 田口一郎
- 2002「金属器・玉類副葬の北関東弥生墳墓」『月刊考古学ジャーナル』491
ニューサイエンス社 p11-14
- 田崎博之
- 1987「唐津市宇木汲田遺跡における 1984 年度の発掘調査」『九州文化史研究所紀要』31 p1-58
- 田中清美
- 1986a「近畿弥生社会の墳墓」『特別展示図録 早良王墓とその時代』福岡市歴史資料館 p1-24
- 2007「たこ焼き型鋳型によるガラス小玉の生産」『大阪歴史博物館研究紀要』6 p1-24
- 田中清美・桜井久之
- 1987「大阪府加美遺跡 Y1 号墳丘墓出土の銅釧」考古学雑誌第 73-2 p96-104
- 田中俊明
- 2011「文献から見た政治史」『弥生時代の考古学 4 古墳時代への胎動』
設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦編 同成社 p88-103
- 田中義昭他
- 1992『山陰地方における弥生墳丘墓の研究』島根大学文法文学部考古学研究室
- 谷豊信
- 1983「楽浪土城址の発掘とその遺構」『東京大学文学部考古学研究室紀要』2 p129-155
- 1995「楽浪郡時代の土城」『月刊考古学ジャーナル』392 p5-8
- 2004「中国文明の観点から見た楽浪文化」
『楽浪文化と東アジア—楽浪郡研究の最前線』シンポジウム資料
- 谷一尚
- 1993『ガラスの比較文化史』杉山書店
- 1997『世界のとんぼ玉』里文出版
- 1998「中国の古代ガラス」『世界美術大全集 東洋編第 2 巻』小学館 p250-255
- 1999『ガラスの考古学』同成社
- 谷澤亜里
- 2011「弥生時代後期におけるガラス小玉の流通—北部九州地域を中心に—」『九州考古学』86 p1-39
- 田村晃一
- 1986「生産と流通」『岩波講座日本考古学 3』岩波書店 p355-377
- 田村朋美・肥塚隆保
- 2010「三雲・井原ヤリミゾ地区出土ガラス小玉の非破壊材質調査」『三雲・井原遺跡VI—ヤリミゾ地区の調査—』糸島市文化財調査報告書 1 糸島市教育委員会 p175-180
- 朝鮮古蹟研究会
- 1934a『楽浪彩篋塚』古蹟調査報告第一 朝鮮古蹟研究会
- 1934b『古蹟調査概報 楽浪古墳昭和八年度』朝鮮古蹟研究会
- 1935『古蹟調査概報 楽浪古墳昭和九年度』朝鮮古蹟研究会
- 1936『古蹟調査概報 楽浪古墳昭和十年度』朝鮮古蹟研究会
- 鄭仁盛
- 2002『楽浪文化の考古学研究』平成 14 年度 博士学位請求論文（東京大学）
- 常松幹雄
- 2011「甕棺と副葬品の変貌」『弥生時代の考古学 3 多様化する弥生文化』
設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦編 同成社 p216-237

寺沢薫

1990「青銅器の副葬と王墓の形成」『古代学研究』121 p1-35

田庸昊

2008「古代韓日の金属・ガラス製品生産関連研究の現況と課題」『日韓文化財論集』Ⅰ
奈良文化財研究所学報 77 奈良文化財研究所・大韓民国国立文化財研究所 p241-297

都出比呂志

1989『日本農耕社会の成立過程』 岩波書店

東京国立博物館・読売新聞社編

2010『誕生！中国文明』図録 読売新聞社・大広

東亜考古学会

1964『東方考古学叢刊』乙種 5

東方考古学会

1990『陽高古城堡—中国山西省陽高県古城堡漢墓』六興出版

長沢和俊

1970「オアシス路をつうずる東西交渉」『漢とローマ 東西文明の交流Ⅰ』護雅夫編 平凡社 p266-296

永島暉臣愼

2004「北朝鮮における楽浪遺跡の調査研究状況」
『楽浪文化と東アジア—楽浪郡研究の最前線』シンポジウム資料

中園聡

1991「墳墓にあらわれた意味」『古文化談叢』25 p51-92

2005「九州甕棺社会のイデオロギー」『季刊考古学』92 雄山閣 p35-39

中山平次郎

1922a「明治 32 年に於ける須玖岡本発掘物の出土状態(其一)」『考古学雑誌』12—10 p1-24

1922b「明治 32 年に於ける須玖岡本発掘物の出土状態(其二)」『考古学雑誌』12—11 p31-48

1928a「爾後採集せる須玖岡本の甕棺遺物一」『考古学雑誌』18—6 p15-40

1928b「爾後採集せる須玖岡本の甕棺遺物二」『考古学雑誌』18—7 p12-26

1929「須玖岡本鏡片の研究 三」『考古学雑誌』19—2 p26-46

西谷正

1982「朝鮮先史時代の勾玉」『森貞次郎博士古稀記念—古文化論集』 p187-202

沼津市史編さん委員会・沼津市教育委員会

2002『沼津市史 資料編 考古』

2005『沼津市史 通史編 原始・古代・中世』

野島永

1996「近畿地方の弥生時代の鉄器について」『京都府埋蔵文化論集』 3 p109-122

2000a「弥生時代の対外交易と流通」『丹後の弥生王墓と巨大古墳』季刊考古学・別冊 10
雄山閣 p29-38

2000b「弥生時代の鉄流通試論」『製鉄史論文集』たたら研究会編 p45-66

2002「丹後地域における弥生時代の鉄をめぐって」

『青いガラスの燦き-丹後王国が見えてきた-』大阪府立弥生文化博物館図録 24 p88-93

2010「弥生時代における鉄器保有の一様相」

『京都府埋蔵文化財論集』6 京都府埋蔵文化財調査研究センター p41-54

野島永・河野一隆

2001「玉と鉄—弥生時代玉作り技術と交易—」『古代文化』53—4 p37-51

野島永・野々口陽子

2000「近畿地方北部における古墳成立期の墳墓(2)」『京都府埋蔵文化財情報』 7 p19-34

橋口達也

2005『甕棺と弥生時代年代論』雄山閣

林巳奈夫

1999『中国古玉器総説』吉川弘文館

原田大六

1954「日本最古のガラス」『糸高文林』2 p4-9

1991『平原弥生古墳』平原弥生古墳調査報告書編集委員会 葦書房

原田淑人

1936「夜光の璧に就いて」『考古学雑誌』26-7 p1-10

肥後弘幸

1991「丹後地域の弥生墓制」『京都府埋蔵文化論集』2 p15-29

1996「家族墓へのアプローチ―北近畿後期弥生墳墓の場合」『京都府埋蔵文化論集』3 p47-60

1999「近畿北部（丹後・丹波・但馬）の墓制」『季刊考古学』67 p71-76

2000「弥生王墓の誕生」『丹後の弥生王墓と巨大古墳』季刊考古学・別冊10 雄山閣 p57-64

平尾良光

2003「青銅器の鉛同位体比」『考古学資料大観6 弥生・古墳時代 青銅・ガラス製品』小学館
p346-368

平尾良光・佐々木美喜・竹中みゆき

1995「鉛同位体比法による春日市出土青銅器の研究」『春日市史』春日市史編纂委員会

平野裕子

2000「メコンデルタ港市遺跡出土古代ガラスの基礎研究」

『高梨学術奨励基金年報』平成12年度 財団法人 高梨学術奨励基金 p29-49

2001「ベトナムの古代ガラス―初期国家形成期における域内交流への一視点」

『ベトナムの社会と文化』3 風響社 p352-376

2004「東南アジアの古代ガラスから見た域内交流とその展開」『GLASS』47 p52-66

平山郁夫シルクロード美術館他編

2007『シルクロードのガラス』山川出版

広瀬和雄

1993「弥生時代首長のイデオロギー形成」『弥生文化博物館研究報告』2 p1-36

1997『縄文から弥生への新歴史像』角川書店

1999「弥生墳墓と政治関係」季刊考古学 67 p24-28

2000a「副葬という行為」季刊考古学 70 p14-18

2000b「弥生王墓と巨大古墳の特質」『丹後の弥生王墓と巨大古墳』

季刊考古学・別冊10 雄山閣 p10-18

福岡市立歴史資料館

1986『早良王墓とその時代―墳墓が語る激動の弥生社会』特別展図録

福島孝行

1996「弥生墓制に見る階層性の検討」『京都府埋蔵文化財論集』3 p39-46

2000「赤坂今井墳丘墓に見る階層性について」『京都府埋蔵文化財情報』7 p1-10

2010「卓状墓の展開」『京都府埋蔵文化財論集』6 京都府埋蔵文化財調査研究センター p73-80

福島雅儀

2000「ガラス玉等の製作痕跡と技法の復原」『日本文化財科学会第17回大会研究発表要旨集』

福永伸哉

2002「交易社会の光と陰―時代のうねりと丹後弥生社会―」

『青いガラスの燦き―丹後王国が見えてきた―』大阪府立弥生文化博物館図録 24 p94-99

2004 「交易社会の発展と赤坂今井墳丘墓」『赤坂今井墳丘墓発掘調査報告書』

峰山町教育委員会 p132-142

2011 「青銅鏡の政治性萌芽」『弥生時代の考古学 7 儀礼と権力』

設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦編 同成社 p112-126

藤尾慎一郎

2008 「日韓青銅器文化の実年代」『新弥生時代のはじまり 3 東アジア青銅器の系譜』

春成秀爾・西本豊弘編 雄山閣 p138-147

藤田等

1994 『弥生時代ガラスの研究』 名著出版

1996 「日本・弥生時代のガラス」『古代文化』 48-8 p38-46

1999 「弥生時代ガラスの考古学的研究」 第1回 考古科学シンポジウム資料

藤原好二

1995 「副葬品の配置と組成」『矢藤治山弥生墳丘墓』 p87-96

文化庁編

1996 『'96 発掘された日本列島一新発見考古速報展』 朝日新聞社

2004 『2004 発掘された日本列島一新発見考古速報展』 朝日新聞社

北條芳隆

1990 「古墳成立期における地域間の相互作用」『考古学研究』 37-2 p49-69

1999 「墳丘とその巨大性」『季刊考古学』 第 67 号 雄山閣 p19-23

2005 「螺旋状銅釦と帯状銅釦」『待兼山考古学論集』 大阪大学考古学研究室 p247-266

堀敏一

1993 『中国と古代東アジア世界』 岩波書店

埋蔵文化財研究会

1988 『定型化する古墳以前の墓制』 第 1・2 分冊 第 24 回埋蔵文化財研究集会

町田章

1988 「三雲遺跡の金銅四葉座金具について」『古文化論叢』 20 p7-14

2002 『研究論集 X III 中国古代の葬玉』 奈良文化財研究所学報 64

松井潔

1996 「山陰東部における後期弥生墓制の展開と画期」

『考古学と遺跡の保護—甘粕健先生退官記念論集』 p119-139

1999 「因幡・伯耆・出雲の墓制」『季刊考古学』 67 雄山閣 p54-60

松木武彦

1999 「副葬品からみた古墳の成立過程」

『国家形成期の考古学—大阪大学考古学研究室 10 周年記念論集—』 p185-205

馬淵久夫・平尾良光

1985 「三雲遺跡出土青銅器・ガラス遺物の鉛同位体比」『三雲遺跡』 福岡県教育委員会 p78-82

1990 「福岡県出土青銅器の鉛同位体比」『考古学雑誌』 75-4 p1-20

馬淵久夫・平尾良光・西田守夫

1991 「平原弥生古墳出土青銅鏡およびガラスの鉛同位体比」『平原弥生古墳 上』

平原弥生古墳調査報告書編集委員会 葦書房 p206-211

三浦清・渡辺貞幸

1988 「山陰地方における弥生墳丘墓出土の玉材について —西谷 3 号墓を中心に—」

『島根県考古学会誌』 5 p45-63

溝口孝司

1999 「北部九州の墓制」『季刊考古学』 67 雄山閣 p49-53

宮里修

2001「多鈕素文鏡について」『史観』144 p65-84

2008「多鈕細文鏡の形式分類と編年」『考古学雑誌』92-1 p1-32

2012「日韓青銅器文化の併行関係と東北アジアにおける位置」

『技術と交流の考古学』岡内三眞編 同成社 p324-335

村上恭通

2001「日本海沿岸地域における鉄の消費形態」『古代文化』53-4 p52-72

2011「東アジア周縁域の鉄器文化」『弥生時代の考古学4 古墳時代への胎動』

設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦編 同成社 p54-67

茂木雅博

1997「古墳に副葬されるもの」『古文化論叢一伊達宗泰先生古稀記念論集一』p213-228

靱山明

2011「金印と柵封体制」『弥生時代の考古学3 多様化する弥生文化』

設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦編 同成社 p238-252

森貞次郎

1980「弥生勾玉考」『鏡山猛先生古稀記念古文化論考』 p307-341

森岡秀人

2011「列島内各地における中期と後期の断絶」『弥生時代の考古学3 多様化する弥生文化』

設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦編 同成社 p176-193

柳田康雄

1983「伊都国の考古学」『大宰府古文化論叢』上巻 吉川弘文館 p1-31

1993「北部九州の対外交渉」『弥生の王国 東アジアの海から』東アジア文化交流史研究会 p64-66

2008「弥生ガラスの考古学」『九州と東アジアの考古学』九州大学考古学研究室50周年記念論文集
p254-274

山崎一雄

1977「飯塚市立岩および春日市須玖岡本関係試料の化学分析」『立岩遺跡』

飯塚市立岩遺跡調査委員会編 河出書房新社 p403-406

1982「宇木汲田遺跡出土の銅釧およびガラス玉の化学分析」『末盧国』六興出版 p322-325

1987『古文化財の科学』思文閣出版

山崎一雄他

1954「対馬と登呂から出土したガラス玉の化学的研究」『古文化財之科学』8

山崎一雄・室住正世・中村精次・湯浅光秋・渡会素彦

1980「中国および日本の古代ガラスの鉛同位対比」『日本化学会史』6

山田康弘

2008「装身具の着装意義」『縄文時代の考古学10 人と社会 人骨情報と社会組織』

小杉康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編 同成社 p167-179

楊伯達・中野徹

1996『中国美術全集10 工芸編 金銀器・ガラス器・瑠璃器』京都書院

由水常雄

1978「東洋古代ガラスの技法」『MUSEUM』324 p14-23

1992a「古代のガラス」『世界ガラス美術全集1 古代・中世』求龍堂 p137-206

1992b「中国・朝鮮の古代ガラス」『世界ガラス美術全集4 中国・朝鮮』求龍堂 p122-192

1992c「日本のガラス」『世界ガラス美術全集5 日本』求龍堂 p113-175

2003『新装版 トンボ玉』平凡社

米田克彦

2009「勾玉祭祀の波及－弥生時代の中国地方を中心に－」

『一山典還暦記念論集 考古学と地域文化』一山典還暦記念論集刊行会編 p103-122

2011「四国地方における弥生時代勾玉祭祀の波及」『玉文化』8 p23-40

李健茂

1991b「8 装身具」『日韓交渉の考古学』小田富士夫・韓炳三編 六興出版 p171-173

李仁淑

1996「東西文化交流の観点から見た韓国の古代ガラス」『古代文化』48-8 p29-37

劉昇雁・黄一義

1988「東胡・鮮卑の文物」『吉林省博物館 中国の博物館3』吉林省博物館編 講談社 p158-163

渡辺貞幸他

1992『山陰地方における弥生墳丘墓の研究 II部 西谷墳墓群の調査 (i)』

島根大学法文学部考古学研究室

NHK 大阪放送局編

1992『正倉院の故郷－中国の金・銀・ガラス－展』

【日本語・発掘報告】

福岡県

飯塚市立岩遺跡調査委員会編

1977『立岩遺蹟』河出書房新社

糸島市教育委員会

2010『三雲・井原遺跡VI－ヤリミゾ地区の調査－』糸島市文化財調査報告書 第1集

春日市教育委員会

1976『大南遺跡調査概報』春日市文化財調査報告書第4集

1980『赤井出遺跡』春日市文化財調査報告書第6集

1988『須玖唐梨遺跡』春日市文化財調査報告書第19集

1994『須玖五反田遺跡』春日市文化財調査報告書第22集

筑紫野市教育委員会

1993『隈・西小田地区遺跡群』筑紫野市埋蔵文化財調査報告書 38集

那珂川町教育委員会

2003『那珂川町の歴史を掘る』安徳台遺跡群遺跡見学会資料

2006a『安徳台遺跡群』那賀川町文化財調査報告書 67

2006b『那珂川黎明-安徳台遺跡群出土品展』那珂川町の文化財 16

福岡県教育委員会

1963『須玖岡本発掘調査概報』福岡県文化財調査報告書第29集

1975『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』-VI-

1978『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告』第9集

1979『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』28

1980『三雲遺跡I』福岡県文化財調査報告書第58集

1981『三雲遺跡II』福岡県文化財調査報告書第60集

1982『三雲遺跡III』福岡県文化財調査報告書第63集

1985『三雲遺跡-南小路地区編』福岡県文化財調査報告書第69集

福岡市教育委員会

1986『吉武高木』福岡市埋蔵文化財調査報告書 第143集

1997『カルメル修道院内遺跡4』福岡市埋蔵文化財調査報告書 第504集

2000『上月隈遺跡群3』福岡市埋蔵文化財調査報告書 634 集

佐賀県

佐賀県教育委員会

1979『二塚山』佐賀県文化財調査報告書第 46 集

1994『吉野ヶ里』吉川弘文館

2004『柚比遺跡群3 第3分冊』佐賀県文化財調査報告書第 155 集

相知町教育委員会

1986『伊岐佐遺跡群』相知町文化財調査報告第 1 集

大和町教育委員会

1981『七ヶ瀬遺跡』大和町文化財調査報告第 2 集

1986『惣座遺跡』大和町文化財調査報告第 3 集

呼子町教育委員会

1981『大友遺跡』呼子町文化財調査報告書第 1 集

長崎県

上県郡峰町教育委員会

1981『峰町東沿岸地域埋蔵文化財発掘調査報告』

田平町教育委員会

1992『中野ノ辻遺跡』田平町文化財調査報告書第 6 集

長崎県教育委員会

1969『対馬』長崎県文化財調査報告第 8 集

1974『対馬』長崎県文化財調査報告書 第 17 集

1977『原の辻遺跡Ⅱ』長崎県文化財調査報告書第 31 集

1999『原の辻遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第 11 集

大分県

竹田市教育委員会

1987『菅生台地と周辺の遺跡XⅡ』

日田市教育委員会

1999『吹上遺跡 第9次調査の概要報告』

熊本県

熊本県教育委員会

1987『下山西遺跡』熊本県文化財調査報告第 88 集

宮崎県

都城市教育委員会

1981『祝吉遺跡』都城市文化財調査報告書第 1 集

山口県

山口県埋蔵文化財センター

1989『羽波遺跡』山口県埋蔵文化財調査報告第 121 集

島根県

出雲市教育委員会

2006『西谷墳墓群』

島根県教育委員会

1971『順庵原1号墳について』 島根県文化財調査報告 7

鳥取県

鳥取県教育文化財団

1996『宮内第1遺跡・宮内第4遺跡・宮内第5遺跡・宮内2・63-65号墳』

鳥取県教育文化財団・国土交通省倉吉河川国道事務所

2005『湯坂遺跡 福留遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書 102

鳥取市教育委員会

1984『桂見墳墓群』鳥取市文化財報告書 18

鳥取市埋蔵文化財センター

2010『松原1号墳丘墓 発掘調査説明会資料』

兵庫県

兵庫県教育委員会

1993『内場山城跡』兵庫県文化財調査報告第 126 冊

2002『梅田東古墳群』兵庫県文化財調査報告第 241 冊

豊岡市教育委員会

1992『上鉢山・東山墳墓群』豊岡市文化財調査報告書第 26 集

2002『妙楽寺墳墓群』豊岡市文化財調査報告書第 32 集

2003『香住門谷遺跡群』豊岡市文化財調査報告書第 34 集

豊岡市出土文化財管理センター

1999『とよおか発掘情報』第 7 号

広島県

広島市教育委員会

1984『中畦遺跡発掘調査報告』広島市の文化財第 29 集

三次市教育委員会

1980『史跡 花園遺跡―第 2 次調査と整備―』

岡山県

岡山県教育委員会他

1999『加茂政所遺跡・高松原古才遺跡・立田遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 138

津山市教育委員会

1998『有本遺跡・男戸嶋古墳・上遠戸嶋遺跡』津山市埋蔵文化財発掘調査報告書 62 集

春成秀爾他

1969『備中清音村鋳物師谷1号墳墓調査報告』古代吉備第 6 集 p7-21

京都府

岩滝町教育委員会

2000『大風呂南墳墓群』岩滝町文化財調査報告書第 15 集

大宮町教育委員会

1998『三坂神社墳墓群・三坂神社裏古墳群・有明古墳群・有明横穴群』

京都府大宮町文化財調査報告書第 14 集

2001『左坂古墳（墳墓）群 G 支群』京都府大宮町文化財調査報告第 20 集

京都府教育委員会

1985『帯城墳墓群 I』埋蔵文化財発掘調査概報

1987『帯城墳墓群 II』埋蔵文化財発掘調査概報

1994『埋蔵文化財発掘調査概報』

京都府埋蔵文化財調査研究センター

1995『京都府遺跡調査概報』第 66 冊

1998『京都府遺跡調査概報』第 84 冊

2000『京都府遺跡調査概報』第 92 冊

2001『京都府遺跡調査概報』第 97 冊

城陽市教育委員会

1987『芝ヶ原古墳』城陽市埋蔵文化財調査報告書第16集

峰山町教育委員会

2004『赤坂今井墳丘墓発掘調査報告書』京都府峰山町埋蔵文化財調査報告書第24集

丹後町教育委員会

1983『丹後大山墳墓群』京都府丹後町文化財調査報告第1集

弥栄町教育委員会

1979『坂野』京都府弥栄町文化財調査報告第2集

大阪府

(財)大阪文化財センター

1982『巨摩・瓜生堂』

奈良県

奈良県立橿原考古学研究所編

1978『昭和52年度 唐古・鍵遺跡発掘調査概報』

福井県

福井市立郷土歴史博物館・小羽山墳墓群研究会

2010『小羽山墳墓群の研究』福井市立郷土歴史博物館研究報告

静岡県

浜松市博物館編

1993『城山遺跡』財団法人浜松市文化協会

【中国語・参考文献】

安家瑶

1984「中国の早期玻璃器皿」『考古学報』1984-4 p449-457

1986「中国の早期（西漢－北宋）玻璃器皿」

『中国古玻璃研究－1984年北京国際玻璃学術討論会論文集』中国建築工業出版社 p86-104

1993「中国古代玻璃与日本吉野里的玻璃管飾」『中国考古学論叢』科学出版社 p415-421

2005「魏、晋、南北朝時期的玻璃技術」『中国古代玻璃技術の發展』上海科学技術出版社 p113-127

王世雄

1986「宝鷄、扶風出土の西周玻璃の鑑定与研究」

『中国古玻璃研究－1984年北京国際玻璃学術討論会論文集』中国建築工業出版社 p131-137

王博・魯礼鵬

2007「扎滾魯克和山普拉古墓出土古代玻璃概述」

『絲綢之路上的古代玻璃研究』復旦大学出版社 p126-138

関善明

2001『中国古代玻璃』香港中文大学文物館

干福熹

2005a「中国古代玻璃的化学成分演变及制造技術の起源」

『中国古代玻璃技術の發展』上海科学技術出版社 p220-240

2005b「中国古代玻璃－古代中、外文化和技術交流的見証」

『中国古代玻璃技術の發展』上海科学技術出版社 p241-251

干福熹主編

1986『中国古玻璃研究－1984年北京国際玻璃学術討論会論文集』中国建築工業出版

2007『絲綢之路上的古代玻璃研究』復旦大学出版社

干福熹・黄振發

1986 「中国古玻璃化学組成的演变（編后）」

『中国古玻璃研究—1984 年北京国际玻璃学术討論会論文集』中国建築工業出版 p138-143

干福熹等

2005 『中国古代玻璃技術的發展』上海科学技術出版社

后德俊

1995 『楚国的砭治髹漆和玻璃製造』 湖北教育出版社

2005 「先秦和漢代的古代玻璃技術」『中国古代玻璃技術的發展』上海科学技術出版社 p80-112

吳傳鈞主編

2006 『海上絲綢之路研究』北海市人民政府・广西壮族自治区文化庁 科学出版社

高偉・高海燕

1997 「漢代漆面罩探源」『東南文化』118 p37-41

高至喜

1985 「論我国春秋戰国的玻璃器及有關問題」『文物』1985—12 p54-65

1986 「湖南出土戰国玻璃璧和劍飾的研究」

『中国古玻璃研究—1984 年北京国际玻璃学术討論会論文集』中国建築工業出版社 p53-58

黄啓善

1986 「广西漢代玻璃制品初探」

『中国古玻璃研究—1984 年北京国际玻璃学术討論会論文集』中国建築工業出版社 p75-81

1988 「广西古代玻璃制品的發現及其研究」『考古』1988—3 p264-276

1992 「广西發現的漢代玻璃器」『文物』1992—9 p46-48

2005 「中国南方和西南的古代玻璃技術」『中国古代玻璃技術的發展』上海科学技術出版社 p182-219

2006 「广西漢代玻璃与海上絲綢之路」『海上絲綢之路研究』吳傳鈞主編 科学出版社 p154-163

黄雪寅

2005 「散樂于内蒙古草原上的古玻璃器」『内蒙古文物考古』2005—1 p50-53

黄振發

2005a 「中国古代玻璃的史料」『中国古代玻璃技術的發展』上海科学技術出版社 p62-79

2005b 「隋、唐、宋時代的古代玻璃技術」『中国古代玻璃技術的發展』上海科学技術出版社 p128-140

史美光他

1986 「一批中国古代鉛玻璃的研究」

『中国古玻璃研究—1984 年北京国际玻璃学术討論会論文集』中国建築工業出版社 p5-9

周世荣

1988 「湖南出土琉璃器的主要特点及其重要意義」『考古』1988—6 p547-555

徐中舒・唐嘉弘

1981 「古代楚蜀的關係」『文物』1981—6 p17-25

蒋廷瑜

2006 「再論漢代罪犯流徙合浦敵問題」『海上絲綢之路研究』吳傳鈞主編 科学出版社 p207-213

趙虹霞・李青会・干福熹・承煥生

2007 「广西合浦地区出土漢代古玻璃的質子激發 X 螢光分析」『核技術』30—1 p27-33

張維用

2005 「元、明、秦時代的古代玻璃技術」『中国古代玻璃技術的發展』上海科学技術出版社 p141-165

張平

2005 「中国北方和西北的古代玻璃技術」『中国古代玻璃技術的發展』上海科学技術出版社 p166-181

程朱海・周長源

1986 「揚州西漢墓玻璃衣片的研究」

『中国古玻璃研究—1984 年北京國際玻璃學術討論會論文集』中国建築工業出版社 p65-71

傅举有

2005 「中国古代早期玻璃研究」『湖南省博物館館刊』第 2 期 p222-257

班固撰・顏師古注

1997 『漢書』二十四史 2 中華書局

彭書琳

2006 「合浦漢墓出土的佩飾品」『海上絲綢之路研究』吳傳鈞主編 科学出版社 p198-206

楊式挺

2006 「略論合浦漢墓及其出土文物的特点」『海上絲綢之路研究』吳傳鈞主編 科学出版社 p20-33

李青会

2005a 「中国古代玻璃出土文物簡編」『中国古代玻璃技術的發展』上海科学技術出版社 p252-280

2005b 「中国古代玻璃物品的化学成分匯編」『中国古代玻璃技術的發展』上海科学技術出版社 p281-326

李青会・干福熹・張平他

2007 「新疆不同歷史時期玻璃器的化学成分分析報告」『絲綢之路上的古代玻璃研究』 p151-169

李文玖

2007 「新疆營盤墓地出土的古玻璃器介紹」『絲綢之路上的古代玻璃研究』 p139-144

山崎一雄・室住正世

1986 「中国古代玻璃与日本弥生時代古墓中出土的玻璃之間的關係」

『中国古玻璃研究—1984 年北京國際玻璃學術討論會論文集』中国建築工業出版社 p47-52

【中国語・発掘報告】

吉林省

吉林省文物工作隊・吉林市博物館

1982 「吉林樺甸西荒山屯青銅短劍墓」『東北考古与歴史』1982-1

遼寧省

高青山

1999 「朝陽袁台子漢代遺跡發掘報告」『中国考古集成 東北卷 10』 北京出版社 p768-777

東北博物館

1957 「遼陽三道壕西漢村落遺址」『考古學報』1957-1 p119-126

劉俊勇

1981 「旅順魯家村發現一處漢代窖藏」『文物資料叢刊』4 p233-236

山東省

濟寧市文物管理局

1983 「巨野紅土山西漢墓」『考古學報』1983-4 p471-500

淄博市博物館

1997 「山東臨淄商王村一號戰國墓發掘簡報」『文物』1997-6 p14-26

山西省

山西省文物管理委員會・山西省考古研究所

1964 「山西長治分水嶺戰國墓第二次發掘」『考古』1964-3 p113-137

山西省文物工作委員會晉東南工作組・山西省長治市博物館

1974 「長治分水嶺 269・270 東周墓」『考古學報』1974-2 p87-110

邊成修

1972 「山西長治分水嶺 126 號墓發掘簡報」『文物』1972-4 p38-46

河北省

中国社会科学院考古研究所他

1980『滿城漢墓發掘報告』（中国田野考古報告集，考古学專刊丁種第22号）文物出版社

河南省

河南省文物研究所他

1991『淝川下寺春秋楚墓』文物出版社

河南南陽市文物考古研究所

2008「河南南陽市陳棚村68号漢墓」『考古』2008-10 p33-39

中国科学院考古研究所

1956『輝県發掘報告』（中国田野考古報告集第1号）科学出版社出版

1959『洛陽燒溝漢墓』（中国田野考古報告集第6号）科学出版社出版

陝西省

咸陽市文物考古研究所編著

1998『塔兒坡秦墓』三秦出版

蘇秉琦

1948『關鷄臺溝東区墓葬』 陝西考古發掘報告第一種第一号』国立北平研究院史学研究所
秦都咸陽考古隊

1982「咸陽市黃家溝戰国墓發掘簡報」『考古与文物』1982-6 p6-15

甘肅省

甘肅省博物館

1982「甘肅平涼廟庄的兩座戰国墓」『考古与文物』1982-5 p21-33

江蘇省

徐州博物館

1988「徐州北洞山西漢墓發掘簡報」『文物』1988-2 p2-18

徐州博物館・南京大学歷史学系考古專業

2003『徐州北洞山西漢楚王墓』文物出版社

湖北省

湖北省荊州地区博物館

1984『江陵雨台山楚墓』中国田野考古報告集考古学專刊丁種第27号

中国社会科学院考古研究所編輯 文物出版社出版

1985『江陵馬山一号楚墓』文物出版社

湖北省博物館・湖北省荊州地区博物館・江陵県文物工作隊 發掘小隊

1973「湖北江陵拍馬山楚墓發掘簡報」考古 1973-3 p151-161

湖北省文化局文物工作隊

1966「湖北江陵三座楚墓出土大批重要文物」『文物』1966-5 p33-55

湖北省文物管理委员会

1966「湖北松滋県大岩嘴東周土壙墓的清理」『考古』1966-3 p122-132

湖北省文物考古研究所編著

1995『江陵九店東周墓』科学出版社

湖南省

湖南省博物館

1977「湖南韶山灌区湘鄉東周墓清理簡報」『文物』1977-3 p36-54

1980「湖南湘鄉牛形山一、二号大型戰国木槨墓」『文物資料叢刊』3 文物出版社 p 98-112

湖南省博物館他

2000『長沙楚墓』文物出版社

湖南省博物館・益陽県文化館

1981「湖南益陽戦国両漢墓」『考古学報』1981-4 p519-549

広東省

広州市文物管理委員会他

1991『西漢南越王墓』（中国田野考古報告集，考古学専刊丁種第43号）文物出版社

広州市文物管理委員会・広州博物館

1981『廣州漢墓』（中国田野考古報告集，考古学専刊丁種第21号）文物出版社

広西省

広西壮族自治区文物工作隊

1981「広西合浦県堂排漢墓発掘簡報」『文物資料叢刊』4 p46-56

広西文物考古研究所・合浦県博物館・広西師範大学文旅学院

2012「広西合浦寮尾東漢三国墓発掘報告」『考古学報』2012-4 p489-539

四川省

四川省博物館

1983「四川犍為県巴蜀土壙墓」『考古』1983-9 p779-785

四川省博物館・新都県文物管理所

1981「四川新都戦国木槨墓」『文物』1981-6 p1-16

四川省博物館・重慶市博物館・涪陵県文化館

1974「四川涪陵地区小田溪戦国土壙墓清理簡報」『文物』1974-5 p61-80

前西南博物院・四川省文物管理委員会

1958「四川巴県冬笋坡戦国和漢墓清理簡報」『考古通説』1958-1 p11-32

馮漢驥等

1958「四川古代船棺葬」『考古学報』1958-2 p77-95

雲南省

雲南省博物館

1975「雲南江川李家山古墓群発掘簡報」『考古学報』1975-2 p97-156

雲南省文物考古研究所他

2001「雲南江川県李家山古墓群第二次発掘」『考古』2001-12 p25-40

内蒙古

伊克昭盟文物站・内蒙古文物工作隊

1980「西溝畔匈奴墓」『文物』1980-7 p1-10

1981「西溝畔漢代匈奴墓地調査記」『内蒙古文物考古』1981-1 p15-26

内蒙古自治区文物工作隊

1965「内蒙古陳巴尔虎旗完工古墓清理簡報」『考古』1965-6 p273-283

張柏忠

1989「内蒙古科左中旗六家子鮮卑墓地」『考古』1989-5 p430-435

田広金

1976「桃紅巴拉匈奴墓」『考古学報』1976-1 p131-144

新疆

新疆博物館他

2002「且末県扎滾魯克2号墓地発掘簡報」『新疆文物』2002-1・2 p1-21

新疆文物考古研究所

2001「新疆尉犁營盤墓地1995 発掘報告」『新疆文物』2001-1・2 p3-46

【韓国語・参考文献】

韓炳三

1976 「曲玉の起源」『考古美術』129・130 韓國美術史學會 p222-228

李健茂

1990 「扶余合松里遺蹟出土一括遺物」考古學誌第2輯 韓國考古美術研究所 p23-49

1991 「唐津素素里遺蹟出土一括遺物」考古學誌第3輯 韓國考古美術研究所 p112-134

李健茂・尹光鎮・申大坤・李榮勳

1989 「義昌茶戸里遺蹟進展報告Ⅰ」『考古學誌』1 韓國考古美術研究所 p5-174

李健茂・尹光鎮・申大坤・金斗喆

1991 「義昌茶戸里遺蹟進展報告Ⅲ」『考古學誌』3 韓國考古美術研究所 p5-111

李健茂・尹光鎮・申大坤・鄭聖喜

1993 「義昌茶戸里遺蹟進展報告Ⅲ」『考古學誌』5 韓國考古美術研究所 p5-114

李健茂・宋義政・鄭聖喜・韓鳳奎

1995 「義昌茶戸里遺蹟進展報告Ⅳ」『考古學誌』7 韓國考古美術研究所 p5-178

李相吉

2002 「装身具から見た細形銅劍文化期の特徴」

『細形銅劍文化の諸問題』九州考古学会・嶺南考古学会第5回合同考古学大会 p175-194

李仁淑

1987 「韓国先史曲玉に関する小考」『三佛金元龍教授停年退任紀年論叢Ⅰ』考古学編 p357-369

1989 「韓國古代琉璃の分析的研究(Ⅰ)」『古文化』第34輯 韓國大學博物館協會 p79-95

1993 『韓国の古代琉璃—Ancient Glass in Korea—』図書出版創文

韓國動力資源研究所放射化分析室

1991 「古代琉璃成分分析表(微量成分)」

『松菊里Ⅳ』國立博物館古蹟調查報告第23冊 國立中央博物館 p249-255

韓修英

2012 「完州新豐遺跡出土竿頭鈴の研究」アジア鑄造技術史学会研究発表概要集6号 p18-22

國立中央博物館

1992 『韓国の青銅器文化』

國立全州博物館・湖南文化財研究院

2011 『金剛の新発見遺物』

【韓国語・発掘報告】

京畿道

尹世英・李弘鐘

1994 『漢沙里』第5卷 文化遺蹟發掘調查報告

漢沙里先史遺蹟發掘調查団・京畿道公營開發事業団

忠清南道

韓炳三・李健茂

1977 『南城里石棺墓』國立博物館古蹟調查報告第10冊 國立中央博物館

韓永熙・咸舜燮

1993 『清堂洞』國立博物館古蹟調查報告第25冊

姜仁求他

1978 『松菊里』Ⅰ 國立博物館古蹟調查報告第11冊

全羅北道

金建洙・韓修英・陳萬江・申元才

2005『完州葛洞遺跡』 湖南文化財研究院・益山地方国土管理廳

尹德香

2000『南陽里発掘調査報告書』全北大學校博物館叢書 17 全羅北道長水郡・全北大学學博物館

全羅南道

崔盛洛

1987『海南郡谷里貝塚Ⅰ』木浦大學博物館學術叢書第 8 冊 木浦大學博物館・全羅南道海南郡

1988『海南郡谷里貝塚Ⅱ』木浦大學博物館學術叢書第 11 冊 木浦大學博物館・全羅南道海南郡

李健茂・徐聲勳

1988『咸平草浦里遺蹟』國立光州博物館・全羅南道・咸平郡

慶尚北道

韓國土地公社・韓國文化財保護財団

1998『慶山林堂遺跡(Ⅰ-Ⅵ)』學術調查報告第 5 冊

國立慶州博物館

2000『慶州隍城洞遺蹟Ⅰ』國立慶州博物館學術調查報告第 12 冊 國立慶州博物館

鄭永和

1994『慶山林堂地域古墳群Ⅱ—造永 EⅢ—8 号墳外—』學術調查報告第 19 冊

嶺南大學校博物館・韓國土地開發公社慶北支社

嶺南文化財研究院

2000『大邱八達洞遺蹟Ⅰ』嶺南文化財研究院學術調查報告第 20 冊 嶺南文化財研究院

慶尚南道

申敬澈他

2000『金海龜旨路墳墓群』慶星大學校博物館研究叢書第 3 輯 慶星大學校博物館

申敬澈・金幸佑

2000『金海大成洞古墳群Ⅰ』慶星大學校博物館研究叢書第 4 輯 慶星大學校博物館

安春培

1984『昌原三東洞甕棺墓』釜山女子大學校博物館遺蹟調查報告第 1 輯 釜山女子大學博物館

【英語・参考文献】

Blair, Dorothy

1973 *A History of Glass in Japan*, Kodansha International.Ltd.,Tokyo

(邦訳 1993 「日本の硝子史」 日本硝子製品工業会)

Brill,Robert H.

1999 *CHEMICAL ANALYSES OF EARLY GLASSES*, The Corning Museum of Glass, New York

Brill,Robert H., Barnes, I.Lynus & Joel,Emile C.

1991 "Lead Isotope Studies of Early Chinese Glasses" *SCIENTIFIC RESEARCH IN EARLY CHINESE GLASS*, The Corning Museum of Glass, New York, p65-83

(【中文】 1986 「中国早期玻璃的鉛同位素研究」

『中国古玻璃研究—1984 年北京國際玻璃學術討論會論文集』中国建築工業出版社 p36-46)

Brill,Robert H., Tong,Stephen S.C. & Dohrenwend, Doris

1991 "Chemical Analyses of Some Early Chinese Glasses" *SCIENTIFIC RESEARCH IN EARLY CHINESE GLASS*, The Corning Museum of Glass, New York , p31-58

(【中文】 1986 「一批早期中国玻璃的化学分析」

『中国古玻璃研究—1984 年北京國際玻璃學術討論會論文集』中国建築工業出版社 p15 -35)

Francis, Peter

2002 *ASIA'S MARITIME Bead Trade*, University of Hawai'i Press, Hawai

Lankton, J. W. and Dussubieux, L.

2006 "Early Glass in Asian Maritime Trade: A review and an Interpretation of Compositional Analyses". *Journal of Glass Studies* 48, The Corning Museum of Glass, New York, p121-144

Oga, Katsuhiko and Sunil Gupta

2000 "The Far East, Southeast and South Asia: Indo-Pacific Beads from Yayoi Tombs as Indicators of Early Maritime Exchange" *SOUTH ASIAN STUDIES* 16, The British Academy, London, p73-88

掲載図版 出典一覧

第1部

第1章

図1 肥塚・田村・大賀 2010

第2章

図1-3・6 筆者撮影

図4 1・7 藤田 1994、2 呼子町教育委員会 1981、3 筆者実測、4 福岡市教育委員会 2000、
5・9 丹後町 1983、6 三次市教育委員会 1980、8 津山市教育委員会 1998、
10 鳥取県教育文化財団 1996、11 兵庫県教育委員会 1993、12 原田大六 1991、
13 豊岡市教育委員会 1992、14 大宮町教育委員会 2001、
15 福井市立郷土歴史博物館・小羽山墳墓群研究会 2010、16・17 兵庫県教育委員会 2002、
18 大宮町教育委員会 1998、19 渡辺貞幸他 1992、20 佐賀県教育委員会 1979、
21 福岡県教育委員会 1980、22 福岡県教育委員会 1981

図5 藤田 1994 図6 筆者撮影

図8 1・2・6・9 藤田 1994、3・7・8・10 福岡県教育委員会 1985、4 原田大六 1991、
5・27・30 大宮町教育委員会 1998、11-13 柳原 2008、
14・18・19 弥栄町教育委員会 1979、15 鳥取市教育委員会 1984、
16・17 京都府埋蔵文化財調査研究センター 1998、20・21 岩滝町教育委員会 2000、
22・23 京都府埋蔵文化財調査研究センター 1995、24 佐賀県教育委員会 2004、
25・28・29 大宮町教育委員会 2001、26 丹後町 1983、31 渡辺貞幸他 1992、
32 長崎県教育委員会 1999、33 春日市教育委員会 1976

図12 飯塚市立岩遺跡調査委員会 1977 図13 峰山町教育委員会 2004

第3章

図1 藤田 1994 図2 島根県出雲市教育委員会 2006 図3・5・6 筆者撮影

図4 岩滝町教育委員会 2000 図7・8・9 小田 1984

図10 1 岡山県教育委員会他 1999、2・3 小田 1984

図11 岩滝町教育委員会 2000 図12 1 大宮町教育委員会 1998、2 兵庫県教育委員会 2002

第4章

図1・3・4 藤田 1994 図2 筆者撮影 図5 福岡県教育委員会 1985

図6 柳田 2008 図7 藤田 1994 図8 那珂川町教育委員会 2006b 図9 藤田 1994

図10 淄博市博物館 1997 図11 蘇秉琦 1948 図12 河上 1991

第5章

図 1-3、4-1、5 筆者撮影 図 4-2 出雲弥生の森博物館提供

第2部

1章

図 2 1-8・11 李健茂 1990、9・10 李健茂 1991、12-15 尹徳香 2000

図 3 1 崔盛洛 1987、2・3・5 安春培 1984、4・6-8 申敬澈他 2000、9 崔盛洛 1988

図 4 1-7 鄭永和 1994、8-10 安春培 1984、11 申敬澈他 2000

図 5 西谷 1982

2章

図 1 湖北省文物考古研究所編著 1995 図 2 楊伯達・中野徹 1996

図 3 1 前西南博物院・四川省文物管理委員会 1958、2 湖北省荊州地区博物館 1984、
3 湖北省文物管理委員会 1966

図 4 劉昇雁・黄一義 1988 図 5 李文玟 2007 図 6 筆者撮影

図 7 1・2 筆者撮影、3・4 島根県八雲立つ風土記の丘編 2001 図 8 鄭仁盛 2002

図 9 吉林省文物工作隊・吉林市博物館 1982 図 10 筆者撮影

図 11 劉俊勇 1981

3章

図 1・2 筆者撮影 図 3 中国科学院考古研究所 1959 図 4・5 グエン・チュオン・キー 2006

図 6 筆者撮影 図 7 1-4・8 筆者撮影、5-7・9 NHK 大阪放送局編 1992

図 8 1・3・6・7 黄啓善 1992、2 広西文物考古研究所他 2012、4 河南南陽市文物考古研究所 2008、
5 平野 2004

図 9 1 平山郁夫シルクロード美術館他編 2007、2 古代オリエント博物館他編 1991

4章

図 1 R.H.Brill 1991 図 2 平尾 2003 図 3-7 新井 2000

論文の内容の要旨

本論文の研究目的は二つある。第一の研究目的は、ガラス製品を通じた弥生社会の分析である。一括して扱われることの多い弥生時代のガラス製品を分析、分類を行い、その時代的変遷や分布などを明らかにした上で、それを基に、弥生時代におけるガラス製品の所有や副葬の様相を分析し、その背後にある集団の意図や行動、また集団間の交流など、弥生社会の様相に新たな考察を行うことである。第二の研究目的は、ガラス製品から見た弥生社会とアジアの対外交渉の検討である。弥生時代のガラス製品の様相を明らかにした上で、列島外のガラス製品と比較検討していくことで、弥生社会の対外交渉を、ひいてはアジア全体の交流をより明らかにしていくことを目論む。

1 部では、弥生時代におけるガラス管珠・勾珠・小珠・釦・璧の様相を個々に検討、その背後にある弥生社会の諸相を考察した。

1 章では弥生時代のガラスに関する研究史をまとめ、さらに金属と異なるガラス独自の特性や、化学分析に見られる研究上の問題点について注意を示した。

2 章ではガラス管珠・勾珠の分類を行い、その地域的・時期的な変遷や分布を検討することにより、それらの背後にある弥生社会の様相を明らかにした。特にこれまで漠然と言われてきたガラス管珠とガラス勾珠の所有における政治性について、中期後葉の北部九州の須玖岡本・糸島を中心とした地域と、後期後葉から終末期の丹後を中心とした北近畿にそれが存在したことを明らかにし、この時期の弥生社会においてガラス管珠・勾珠は単なる装飾品ではなく、権威の象徴として、また政治的な紐帯を示すものとして、その副葬は重要な役割を担っていたことを明確に示した。

3 章ではガラス釦を検討、大きく二系統に分類し、それらが列島内の釦の系譜に連ならず、搬入品であることを明らかにし、各地の首長が独自に大陸と交渉して入手した可能性が高いことを示した。

4 章では北部九州の中期後葉の墳墓から出土する、ガラス璧の舶載の様相を明らかにし、弥生社会におけるガラス璧の意味と、漢帝国の当時の北部九州の国々に対する認識を考察した。特に中国における璧の副葬の比較から、ガラス璧はこれまでの研究で考えられたように単なる倣玉品ではなく、独自の価値を持つ品であること、またその璧としての“格”が低くは無いことを指摘した点は重要である。そしてガラス璧は蕃国の王への下賜品として不適切なものではないことを示した。結果、ガラス璧は王への葬具として下賜されたものであるこ

とを再確認し、漢帝国は「イト」「ナ」を蕃国の王として認識しており、その下賜の背景には君臣関係を強固にするという意図が存在していた、と論じた。またそのガラス璧の副葬の様相から、「ナ」「イト」の「王」はガラス璧の重要性を充分認識していた、と指摘した。

5 章ではガラス小珠の様相をまとめ、以前から指摘されている小珠の色調構成に見られる地域的な差異の背景や、小珠の流入量の変動の地域的な差異の背景を考察し、列島外の動きの影響だけでなく、列島内の地域間の交渉による影響をも検討すべきであることを指摘した。

これらの研究より、弥生時代の国内、特に西日本におけるガラス製品の様相や所有、副葬の様相を把握することができた。中でも中期後葉の北部九州、後期後葉から終末期の山陰・丹後の三地域は特徴のある様相を示しており、終章ではこれら三地域を中心に、ガラス製品全体の様相とその背景にある社会の動きについてまとめを行った。いずれの地域でも、独自に対外交渉を行った中でガラス製品を入手したと考えられ、これらガラス製品は、首長の権力基盤を示す外部社会の威信を象徴する財であったこと、特に北部九州と北近畿の丹後においては、首長達の新たな支配体制と紐帯を示すものとして所有・副葬されていたことを論じた。またこの二地域が舶載ガラスを改鑄したガラス勾珠を最重視した点は、権力基盤の拠り所を示すガラスと、国内において高い政治性と象徴性を持つ勾珠の形態、という二つを融合することができ、二重の意味で高い象徴性を持つことができたためと考えられ、ガラスならではの可塑性の高さを活かした政治的行為であると指摘した。また、列島内における各地域集団の交易やつながりについても、ガラス小珠について丹後を中心とした様相が浮び上がるが、それはこれまで注目されてきた鉄製品の交易モデルとは必ずしも一致しない可能性を示した。最終的に、これら弥生時代のガラス製品は、交易を基盤とした貴重品財政とその社会の、隆盛と衰退を明白に示す遺物であると論じた。

2 部では弥生時代併行におけるアジアのガラス製品の様相をまとめ、弥生時代のガラス製品との対比を行い、弥生社会の対外交渉の諸相について考察を行った。

1 章では朝鮮半島の弥生併行期におけるガラス製品をまとめ、形態を分類し、その製作地の推定と弥生のガラス製品との関係を検討した。無文土器時代のガラス管珠は朝鮮半島における製作が想定されてきたが、本論でも当該地から弥生社会に搬入されたと考えられる結果となった。しかし原三国時代のガラス管珠については、これまで推定されてきたような朝鮮半島における製作を想定する事は困難であり、今後製作地を検討する必要があること、さらに中国から朝鮮半島を経由して日本に搬入されたという想定も困難である、という結論に至った。一方原三国時代のガラス曲珠は、当該地における製作と日本からの搬入という二説が

存在したが、日本からの搬入品であることを明らかにした。

2 章では中国の戦国時代から漢代におけるガラス管珠の出土品を検討し、それらと弥生時代のガラス管珠との関係について検討を行った。中国のガラス管珠については、各時代の特徴やガラス管珠の系譜といった、これまで漠然としていた全体的な様相をある程度明らかにすることができた。さらに弥生時代のガラス管珠との比較検討の結果、弥生時代中期後葉以降に見られるガラス管珠のタイプの大半が、併行期の中国に存在していることが判明した。特に楽浪土城における WE 東山タイプのガラス管珠の製作の可能性から、このタイプの管珠を入手していた後期の弥生社会の首長達が、漢帝国と公的なつながりを持っていた可能性を示唆する結果となった。一方で、当時の漢帝国における活発なガラス製品の流通の様相と、弥生社会におけるガラス製珠類の豊富さと多様性から、漢帝国のガラス製品交易網の末端に弥生社会が属していた可能性も指摘した。

3 章ではガラス小珠を中心としたカリガラス製品について、東アジアを中心にその分布や形態などについて検討を行い、これまで漠然と言われてきた中国南部におけるカリガラス製品の生産・製作がより確実であることを論証した。さらにこれらカリガラス製品が汎アジア的に広がる背景には、漢帝国の拡張や活発な経済活動があることを指摘し、カリガラス製品が広く古代アジアの交易交渉を示す、貴重な証拠であることをあらためて明示した。

4 章では中国の戦国時代から漢代にかけてのガラス製品の鉛同位体比の分布とその意味をまとめ、その上で弥生時代のガラスの鉛同位体比と比較することにより、流通や交渉において新たな所見が得られるか検討を行った。当該期の中国のガラスについては、広範囲の多様な鉛鉱山の鉛が各地で使用されており、鉛同位体比から製作地と遺物を結びつけることが困難であるという結果が得られた。次に弥生時代のガラス製品の鉛同位体比との比較検討においては、そのような鉛の広範囲の流通の中で、斉一的な鉛同位体比が示す意味を改めて検討した。これにより、中期後葉の北部九州にみられる斉一的な鉛同位体比を持つガラス璧・管珠・勾珠について、下賜品とその改鋳品という考古学的に検証してきた推論を、鉛同位体比が裏付ける結果となった。一方後期のガラス製品の鉛同位体比は非常に多様で、漢代のガラス製品の多様さを反映する様相にあることが明らかとなった。しかし中国古代のガラス製品は鉛同位体比から製作地と遺物を結びつけることが困難であるという結論により、弥生時代のガラス製品の搬入先についても、鉛同位体比から考察することは難しいことが判明した。

これらの研究から、弥生時代併行期のアジア社会のガラス製品の様相が、かなりの程度あきらかとなった。終章においてはこれまでの研究をまとめ、弥生社会のガラス製品の様相や

その他の搬入品、そして弥生社会の動向、アジアのガラス製品の様相と漢帝国の動向など、多角的な方面から、弥生社会の対外交渉の様相とその大陸の窓口についてまとめを行った。

弥生時代中期に関しては、北部九州の二つの地域が、大陸からの働きかけの中で、東アジア社会とのつながりを深めていく動きが、ガラス製品の様相から示されることを指摘した。さらにそのような対外交渉の活動の中にも、すでに多層的な接触があることを示した。

また弥生時代後期については、中国や朝鮮半島アジアのガラス製品の様相から、楽浪郡域が弥生社会、特に北部九州と北近畿の対外交渉の中心的な窓口であったことを論じ、公的だけでなく多層的なつながりがあった状況を示した。さらに弥生社会に見られる小珠の様相から、そのガラス小珠の需要が、アジアのガラス小珠の生産や流通に大きな影響を与えた可能性も示唆した。そのような中で、漢帝国の混乱に伴うガラス製品の流通量の減少は、威信財交易によりその地位を築いた丹後弥生社会の、没落の一因となった可能性を論じた。

以上、本論文は、弥生時代のガラス製品の分析から、弥生社会の諸相に迫るとともに、そのガラス製品の分析を核に、併行期のアジア世界のガラス製品を広く検討し、当時の対外交流や、古代アジア社会における弥生社会の立場を、考察したものである。